



日本語には「姿」や「形」を「影」と表現する言葉がありますね。冬の寒い夜、皓々とした“月影”に、ふと『灯台守』という歌「凍れる月影 空に冴えて…」を思われる方もいらっしゃるでしょう。原曲は外国のものですが、わが国では明治22年(1889年)の『明治唱歌第三集』に掲載され、後に昭和22年(1947年)『五年生の音楽』(共に文部省)に掲載されました。昭和55年(1980年)にNHKの『みんなのうた』でこの歌が紹介された際には、かつて灯台守が勤務した舳倉島(輪島市)の灯台も放映されました。被災地の方々は今どんな思いで月影を見ているのでしょうか。

市内小学校開校150周年記念展示「越谷から見た近代教育」

『第三部 近代学校の夜明け前』を終えて

今回の展示は期間中584人の方々にご覧いただきました。有難うございました。アンケートに記されたご感想からいくつかご紹介致します。

「近代化への躍動を感じます」

- ★今日の日本の教育につながっていることがよくわかりました。(県内)
- ★江戸時代→明治の初期に「お寺」の果たした役割の大きさに感銘を受けた。(市内)
- ★近代教育の下地が寺子屋にあったこと、理解できました。(県内)
- ★日本が大きく近代化に向かっていく躍動を感じます。(市内)
- ★寺子屋の歴史を順に追えるパネルなどがとても見やすかったです。(市内)
- ★(今回は第三部だが、第一部から)トータルなシリーズとして拝見したく思いました。(隣接市)
- ★南埼玉郡が浦和、川越に比べ寺子屋数が少ないのが意外でした。江戸～明治期の移り変わり、拡がり方が分かる展示でした。今の街の姿しか知らず、当時のこのエリアの姿を垣間見られ興味深かったです。(隣接市)
- ★小さい頃からこの中村家住宅は目にしていたし、小学校の時に一度見学をしたことがありましたが、今改めて来てみて、寺子屋をやっていたことや大聖寺に関りがあると知って驚きました。(市内 高校生)
- ★学制スタートの時点で、大相模地区の三校(進文、培根、千疋)の在籍児童数の合計が553名に昇っていたこと。あの経済的に貧しい時代に、わが子を入学させた農民の親御さんたちに、ちょっと涙が出そうになりました。(隣接市)
- ★今回の展示は越谷を中心になっているが、日本全体としてはどうだったのか……社会科教員になった時に「学制」から派生させて今回の史料を駆使したいと感じた。(隣接市 大学生)



『近郷村名』(越谷市教育委員会蔵)

寺子屋で「手本」として用いられたようです。「瓦曾根、西方、大相模、東方、向かい」は吉川、赤岩、松伏、大川戸などこの地域に在った村々の名前が記されており、文字と共にその位置関係などの地理も学んだのでしょうか。

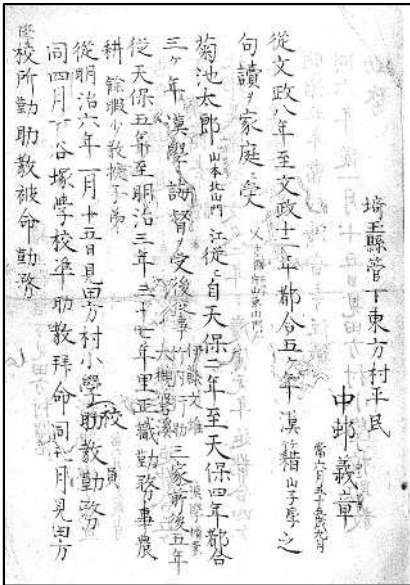
近世末期～明治初期の日本人の識字率は、当時としてはとても高かったと思われます。それは寺子屋によるところが大きかったわけですが、越谷地域でも教育の近代化を支え促進させる人々と活動があったことを、ご来館下さった皆さんが感じ取られたことを大変有難く思っています。

寺子屋の運営・活動を担った師匠は、近世前半には武士や僧侶がほとんどでした。それが天保期(18世紀中葉)以降は農民や商人などが多くなっていきました。寺子屋は明治5年(1872年)以降に近代学校に繋がっていきま

すが、寺子屋師匠から学校教員になった人の中に、現在の市立大相模小学校の前身であった「培根学校」を設立した中村義章（号：培根）がいました。今回の展示ではその人についても紹介しました。

礎を作った寺子屋師匠 中村培根

- ★幕末からの歴史の中で、一地方の名主が果たした役割とはいえ、すごい熱を感じました。（市内）
- ★越谷には大変な方がいらっやったことに驚いています。（春日部）
- ★江戸の末期から明治初期のあの激動の嵐のような時代に、“中村義章”名主がいたことに感銘を受けました。ある種、己を捨てて地域の子供たちに寺子屋を開き運営する姿に頭が下がりました。（隣接市）



中村義章の履歴書(写)
(越谷市教育委員会蔵)

明治6年に学校設立に当たって
県に提出したものの控えです。

中村培根(義章)年譜 (年齢は満年齢)

- * 文政元年(1818年):西袋村(現八潮市)の名主・小澤豊功の三男として出生。幼名・千之助
- * 文政8~12年(1825~29年):実父から漢籍の講義を受ける。(7~11歳)
- * 天保2年(1831年):東方村名主・中村興治の養子となる。(13歳)この年から天保4年まで菊池太郎より漢学の講義を受ける。
- * 天保5年(1834年):中村家を相続し名主役となる。寺子屋を始める。(16歳)
- * 天保9年(1838年):この頃に「うた」と結婚。(20歳)
- * 嘉永3年(1850年):養父との扶養契約をする。(32歳)
- * 嘉永~安政年間:この間、度々借金をする。(30歳代~40歳代)
- * 安政元年(1854年):家族の在り方を『修斎編』として著す。(36歳)
- * 安政2年(1855年):養父死去。
- * 安政3年(1856年):この頃『外夷建議録』(開国についての諸大名、幕臣の意見をまとめた書物の写し)を借りて書き写す。(38歳)
- * 明治元年(1868年):この頃、村の長としての心構えを記す。(50歳頃)
- * 明治6年(1873年):培根学校を(後の大相模小学校)設立。(55歳)
- * 明治9年(1876年):死去(58歳)

『里正ノ奮発尽力ヲ冀望スル事』

(一部現代語訳)(越谷市教育委員会蔵)

我が国を世界一の豊かな国にして子孫にその恩恵を享受させたいと望むことは、すぐに出来る事ではないが、村の長が勉強して奮発することで村人も奮発し、世の中がそれになっていけば達成できないことはない。

古民家での給排水と祈り

越谷市が管理運営している旧東方村中村家住宅と大間野町旧中村家住宅での小学生社会科見学では、時間の余裕がある時には「厠」を案内しています。すると、「どうやって流すの?」と質問があり、「流さないんだよ。」と応えると、不思議そうな顔をしています。同様に「流し」や「風呂」について問われることもあります。家庭で炊事や入浴に使われる水はどのようにして手に入れ、使われた後はどうなったのかということや排泄物の扱いは、当時の生活を全体的に知る上で大切なことです。

さらには、これらの場所には神が祀られていることもあります。日常の営みの場所に神が祀られたことから、その頃の人々の考え、思いを知ることもできそうです。この中で厠神については「厠に入る時には咳ばらいをしてから入る」とか「厠をきれいに掃除すると出産が軽い」、また地方によっては「家の新築時には便壺の下に男女の人形を埋める」などの伝承があります。厠は井戸と共に異界に通じる特殊な空間として認識されていたのでしょう。(『日本民俗大辞典』(吉川弘文館)、『竈神と厠神』(講談社学術文庫)等による)